

# 令和5年度 キャリア教育 全体計画

## 【教育目標】

未来を見つめ、自ら考え行動できる生徒

確かな学力 【知】  
豊かな心 【徳】  
健やかな体 【体】

## 【生徒の実態】

- 将来の夢や目標を持っている生徒が多い。
- 人の役に立ちたい、困っている人を助けたいという他者への思いやりを持っている。
- 自分で決めたことをやり遂げたり、自ら考え取り組むことが大切だと考えている。
- ▲他者との関わりの中で、自分の考えを伝えたり、深めたりする力が弱い。
- ▲難しい課題に直面したときに、粘り強く取り組むことが苦手である。
- ▲勉強する際に、やり方を工夫したり、これまでの学習との関連を考える力が弱い。

※生徒の実態にあたっては、各種調査(キャリア教育関連)集計結果【別紙】をもとに、教師の見取りと合わせて把握したものである。

## 【棚倉中生の目標】

**自分のよさを伸ばし、「なりたい自分」の実現に向けてチャレンジする生徒**  
～「自分で決める」自己マネジメント力の向上を目指して～

## 【育成すべき基礎的/汎用的能力】

(人間関係形成・社会形成能力)  
(自己理解・自己管理能力)  
(課題対応能力)  
(キャリアプランニング能力)

つながる力  
自律する力  
乗り越える力  
見通す力

自分の立場・役割を自覚し、他者と関わる力  
自らの成長のために、正しく考え行動する力  
様々な課題に前向きに向き合う力  
学ぶことの意義を考え、将来を拓く力

## 【各学年・各学期で育てたい資質・能力(ほめポイント)】

	1学年	2学年	3学年
学年目標	<b>「なりたい自分」発見!</b>	<b>前向きに全力で挑戦!</b>	<b>志に向かってチャレンジ!</b>
第一 四半期 4～6月	<b>自分や仲間を知ろう</b> ～SSTや諸活動を通して、お互いのよさに気づく力の育成～	<b>深く広く考えよう</b> ～話し合い活動を通して、新たな気づきから自分の考えを深める力の育成～	<b>学び合い、お互いを高め合おう</b> ～他者との関わりを通して、自分の考えを深める力の育成～
第二 四半期 7～9月	<b>自分や仲間を育てよう</b> ～周囲との関わりの中で、お互いのよさを育てる力の育成～	<b>最後まであきらめない強さをもとう</b> ～物事に取り組む時、最後まで粘り強く取り組む力の育成～	<b>自分の弱さと戦い、自分を高めよう</b> ～自ら課題に気付き、自らの成長のために正しく考え、行動する力の育成～
第三 四半期 10～12月	<b>自分や仲間を伸ばそう</b> ～周囲との関わりの中で、お互いのよさを伸ばす力の育成～	<b>互いに高め合おう</b> ～自他のよさを認め、切磋琢磨しながら、共にさらなる高みを目指せる集団の育成～	<b>得意を伸ばし、苦手を克服しよう</b> ～進路実現に向けて、様々な課題に前向きに取り組む力の育成～
第四 四半期 1～3月	<b>将来につなげよう</b> ～周囲との関わりの中で、お互いのよさを将来につなげる力の育成～	<b>なりたい自分を描く</b> ～夢を実現するために、見通しをもって学習に向かうことができる力の育成～	<b>志に向かって、努力!努力!努力!</b> ～将来を切り拓くために学び続ける姿勢の育成～

## 【具体的な取り組み】

### 1 立志教育の推進

- (1) 「1年・志を求めて」、「2年・志を立てる(立志式)」、「3年・志に向かって」を学習活動の流れとし、「生き方」を考える契機とする。
- (2) 棚倉町キャリア教育アドバイザー・岡野誠氏と連携し、立志教育を計画的に実施する。

### 2 生徒の自発的・自治的な活動の推進

- (1) 「自分で決める」をモットーに、「意思決定」「合意形成」の場を意図的・組織的に設定する。  
例) 生徒主体の学級活動の実施、生徒会活動の活性化
- (2) キャリア・パスポートの活用を通して、生徒の「自己理解」、教師の「生徒理解」を深める。また、目標・計画・反省・振り返り・改善をさせ、PDCAサイクルを確立する。  
例) 各行事、学期末等における活用
- (3) フォーサイト手帳(自己管理型手帳)を活用し、自己の生活を管理するとともに、自己理解・自己管理能力を高める。  
例) 各教科の授業や短学活での使用、各自による使い方の工夫、家庭学習との連動

### 3 探究的な活動の推進

- (1) 総合的な学習の時間を中心として、自らテーマを設定して学ぶ「探究学習」を実施する。
- (2) 自ら課題に気付き、学びを深める学習活動を通して、学ぶ意欲とスキルを向上させる。

### 4 「ほめポイント」の明確化と共有

- (1) 各学年・各学期で育てたい資質・能力を「ほめポイント」として共有する。生徒ができたこと・成長したことを見取り、組織的な「価値付け」を行う。